

第11回09/06/29 (CS3年・荒井) ネットワークプランニング

ダイナミックルート・RIP

※本資料は授業後(数日以内)にWEBで閲覧できるようにします※

2009/06/29

第11回ネットワークプランニング09(荒井)

1

今日の予定

- ○ダイナミックルーティング
 - □ルーティングとルーティングテーブル【復習】
 - ○ダイナミックルート(※7.6)
 - ○ルーティングプロトコル(※(p357),7.7)
- ○RIPの設定(※8.7)
 - RIPを有効にする
 - router rip
 - RIPを使うネットワークを指定する
 - network networkaddress
 - 例:教科書p437
- ●演習:3台のルータによるRIP

2009/06/29

第11回ネットワークプランニング09(荒井)

2

ルーティング(※7章)【復習】

- ルータ(ネットワーク層のデバイス)によってネットワークとネットワークが接続されるが、自ネットワークではない(リモート)ネットワークにアクセスするための経路制御;異なるネットワーク宛の packets を転送するためのプロセス
 - ルータの最大の役割
 - ルータはネットワークとネットワークの橋渡し
 - 何でも渡せばよいというものではなく、どのようなものをどこへ渡すか選択

2009/06/29

第11回ネットワークプランニング09(荒井)

3

スタティックとダイナミックルート の比較(※7.5,7.6)【復習】

- スタティックルート
 - 管理者:手作業。トポロジ変更があれば適宜修正
 - ルータの負荷:小さい
 - ネットワーク規模:小規模、末端NW(スタブ:ルータに対して一ヶ所だけで接続されているNW)に有効
 - セキュリティ:高い
- ダイナミックルート
 - 管理者:自動設定。但し初期設定時にはそれなりの知識が必要
 - ルータの負荷:大きい
 - ネットワーク規模:小~大規模に有効
 - セキュリティ:低い

2009/06/29

第11回ネットワークプランニング09(荒井)

4

ルーティングテーブル【復習】

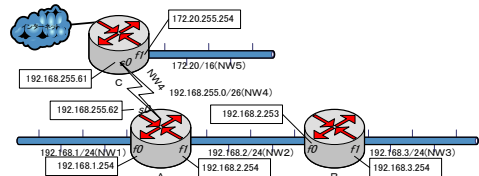
- 経路情報のデータで、これを利用しルーティング先が決定される
 - 宛先NW with Netmask、Gateway、Interface/NextHop、Cost/Distanceなどの情報
- ルーティングテーブルの確認
 - show ip route [特権モード内]
- 有効化されているI/Fのネットワーク(直接接続されているNW)は、自動的にルーティングされる
 - ルーティングテーブルに自動的に登録される

2009/06/29

第11回ネットワークプランニング09(荒井)

5

具体的なルーティング情報例(1)【復習】



- ルータAにおけるあるべきルーティングテーブル
 - 192.168.1/24(NW1): →f0(直接)
 - 192.168.2/24(NW2): →f1(直接)
 - 192.168.255.0/26(NW4): →s0(直接)
 - 192.168.3.0/24 (NW3): → 192.168.2.253
 - 172.20.0.0/16 (NW5): → 192.168.255.61
 - デフォルトルート: → 192.168.255.61

2009/06/29

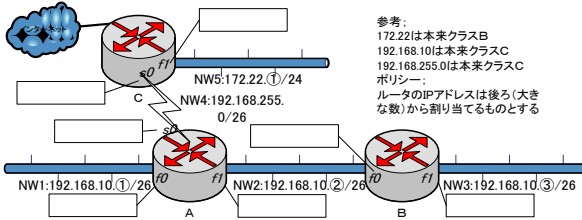
第11回ネットワークプランニング09(荒井)

6

具体的なルーティング情報例(1) 【復習】

- ルータCにおけるあるべきルーティングテーブル
 - 192.168.255.0/26(NW4): →s0(直接)
 - 172.20/16(NW5): →e1(直接)
 - 192.168.1.0/24 (NW1): → 192.168.255.62
 - 192.168.2.0/24 (NW2): → 192.168.255.62
 - 192.168.3.0/24 (NW3): → 192.168.255.62
 - デフォルトルート: → s1?(インターネット接続のI/F)
- ルータBにおけるあるべきルーティングテーブル
 - 192.168.2/24(NW2): →e0(直接)
 - 192.168.3/24(NW3): →e1(直接)
 - デフォルトルート: → 192.168.2.254
 - いわゆるスタブネットワーク(末端)なので、デフォルトルートをインターネット方向のルータに向ければよい

具体的なルーティング情報例(2)【復習】



- ネットワークアドレス+サブネットマスク
 - NW1: 192.168.10.0 255.255.255.192
 - NW2: 192.168.10.64 255.255.255.192
 - NW3: 192.168.10.128 255.255.255.192
 - NW4: 192.168.255.0 255.255.255.192
 - NW5: 172.22.0.0 255.255.255.0

具体的なルーティン グ情報例(2)【復習】

- 各ルータにおけるあるべきルーティングテーブル

ルータAのルーティングテーブル

宛先	Next-Hop	I/F
Def-RT	rt-B[s0]	-
NW1	Direct	F0/0
NW2	Direct	F0/1
NW3	rt-B[f0]	-
NW4	Direct	S0/0
NW5	rt-B[s0]	-

※Next-Hopの「rt-B[s0]」は、「ルータBのs0/0に割り当てたIPアドレス」のことを指すものとする

ルータBのルーティングテーブル

宛先	Next-Hop	I/F
Def-RT	rt-A[f1]	-
NW1	省略可(rt-A[f1])	-
NW2	Direct	F0/0
NW3	Direct	F0/1
NW4	省略可(rt-A[f1])	-
NW5	省略可(rt-A[f1])	-

ルータCのルーティングテーブル

宛先	Next-Hop	I/F
Def-RT	インターネット側	-
NW1	rt-A[s0]	-
NW2	rt-A[s0]	-
NW3	rt-A[s0]	-
NW4	Direct	S0/0
NW5	Direct	F0/1

ダイナミックルート(※7.6)

- ルーティングプロトコルによって、自動的に経路が設定される(学習)
 - トポロジが変更された場合でも、自動学習
 - ネットワークの追加などが行われた場合、直接関係するルータのみの設定でOK
 - 障害などによって、あるネットワークが遮断された場合、自動的に障害のあるネットワークへのルーティングが削除
 - ルーティングプロトコルによって、決定される経路は違う
- 隣接するルータ同士がルーティング情報をやりとりし、次々と伝播させる

ルーティングの設計

- 管理するネットワーク全体のトポロジなどにより、静的か動的か、各ルータにおけるデフォルトルートなどを決定
 - いずれにしても各ルータにおけるあるべきルーティング情報はきちんと把握しておく必要がある
 - クライアントについて
 - ルータではない通常のノード(ホストなど)においては、最低限デフォルトルートを指定する必要がある
 - ノードによっては、動的ルートをサポートしているものもある
 - サーバ系のOS: Unixなどはサポート、通常のWindowsは未
 - 2つ以上のルータが存在するネットワークにおけるノードのデフォルトルート先は、どのルータを指定しても大丈夫
- 動的と静的ルーティングの両方を用いることも可能
 - ネットワークの一部範囲で使い分けることも可能
 - 一つのルータで両方を使うことも可能

ルーティングプロトコル (※(p357),7.7)【参考】

- IGP (Interior Gateway Protocols)
 - 自律システム(AS: Autonomous System)内で使用するルーティングプロトコル
 - RIP, OSPF, IGRP, EIGRP などがある
 - RIPは小規模、OSPFは大規模、後者二つはCisco特有
- EGP (Exterior Gateway Protocols)
 - 自律システム(AS: Autonomous System)間で使用するルーティングプロトコル
 - BGP4, EGP などがある
 - BGP4はインターネットで標準的に使われている

RIP(※8.7)

- 小規模なネットワークに有効な動的制御プロトコルで、ディスタンスベクター型アルゴリズム
 - ホップ数を距離として最適経路を決定
 - 速さなどには無関係
 - 15以上のホップは不可能
 - 単純に言うとルータが15個以上のNW規模では利用不可能
 - アップデート(情報伝達)は30秒間隔
 - サブネットマスクの情報は伝達されない
 - クラスフルネットワークで設定する必要がある
- v1とv2がある
 - v2では、VLSMを扱える、アドバタイズ(伝達)がブロードキャストではなくマルチキャスト
 - ここではv1を使用するものとする

2009/06/29

第11回ネットワークプランニング09(荒井)

13

RIPの設定(※p435)

- 個々のルータでRIPを使用するためには次の2つの設定が必要
- RIPを有効にする
 - router rip [confモード内]
 - →router-confモードに移行
- RIPを使うネットワークを指定する
 - network network-address [router-confモード内]
 - network-addressには他のルータに伝えるべき(クラスフル)ネットワークを全て個々に指定
 - つまり「そのルータが接続しているネットワーク」を指定する
 - サブネットマスクは指定しないことに注意
- RIPの解除
 - no router rip [confモード内]
- アドバタイズネットワークの削除
 - no network network-address [router-confモード内]

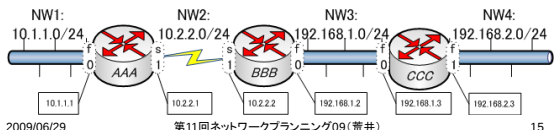
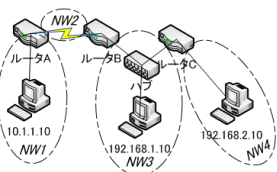
2009/06/29

第11回ネットワークプランニング09(荒井)

14

RIPの設定例p437

- 4つのネットワーク
 - (1)10.1.1.0/24、
 - (2)10.2.2.0/24、
 - (3)192.168.1.0/24、
 - (4)192.168.2.0/24
 - 本来、NW1,2はクラスA(/8)、NW3,4はクラスC(/24)
- 3台のルータで接続
 - ルータA(1)とルータB(2)はシリアル、その他はイーサで接続



2009/06/29

第11回ネットワークプランニング09(荒井)

15

RIPの設定例p437

- ルーティングを設定していない場合、例えばNW1からNW3へ疎通できない
- ルータ1(A)におけるRIP設定
 - router rip [#RIPを動作させ、RIP-confモードへ移行]
 - network 10.0.0.0 [#RIPに乗せるネットワークアドレス]
 - 「network 10.1.1.0」と「network 10.2.2.0」としてもエラーにはならず上記と同じ意味として受け付けてくれるが、上記が正しい
 - RIPではサブネットワークを指定することはできず、クラスフルネットワーク(サブネットワーク化する前のネットワーク)を指定しなければいけない
- ルータ2(B); router ripをした上で、
 - network 10.0.0.0
 - network 192.168.1.0
- ルータ3(C); router ripをし、
 - network 192.168.1.0
 - network 192.168.2.0



2009/06/29

第11回ネットワークプランニング09(荒井)

16

RIPの確認(※p439-446)

- show running-config [p440参照]
 - 全ての設定情報の中で、[router rip][network xx.xx.xx.xx]が設定されているかを確認
- show ip protocols [p442参照]
 - RIPプロトコルが有効になっていて、伝搬すべきネットワークアドレスを確認
- show ip route
 - ルーティングテーブルの確認
 - 伝搬されてきた情報も正しく載ってきているか
 - サブネットは集約され、クラスフル(本来のクラスのままと)してテーブルに載る
- debug ip rip (特権モード内)[p443参照]
 - ripにより情報が伝搬している様子がわかる

2009/06/29

第11回ネットワークプランニング09(荒井)

17

演習;RIPによるネットワーク構築

- サブネット化したネットワーク4つを3台のルータでイーサ接続し、RIPによるルーティングで、ネットワークを正しく動作させよう!
- 対象とするネットワークは、
 - (1)192.168.10.①/27、(2)192.168.10.②/27、(3)172.16.⑤/24、(4)172.16.⑥/24
 - (1)(2)は本来クラスC(/24)、(3)(4)は本来クラスB(/16)
 - 各ネットワークはスイッチ(1900)(4台)とし、各SWにはホストを1台ずつ(計4台)設置するものとする
 - ルータ3台により全てEtherで接続
 - 各ルータにおけるデフォルトルートはなしとする

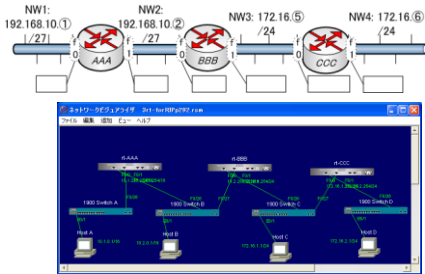
2009/06/29

第11回ネットワークプランニング09(荒井)

18

演習 ; IP の設計と構築

- IPを設計して、NV4で構築



※上図のIPアドレスは全く違っています

2009/06/29

第11回ネットワークプランニング09(荒井)

19

演習 ; RIP の設定

- 各種設定
 - IFの有効化やIPアドレスなどをきちんと設定
 - ルータでは show running-config、ホストではIP Configで確認しよう
- RIPの設定
 - 各ルータにおいて適切にRIPを設定しよう
 - show ip route などで確認しよう
 - サブネットのRIPの場合、ルーティングテーブルには、集約された(サブネット毎ではなくクラスフルネットワーク)経路情報が載ってくることに注意しよう

2009/06/29

第11回ネットワークプランニング09(荒井)

20

演習 ; ネットワークの動作確認

- 動作確認
 - ルータの設定情報だけでなく、動作しているルーティングプロトコル、現在のルーティングテーブルを表示して確認
 - RIPは30秒毎に情報が伝播され、すぐに全てのルータが自動設定されるわけではないことに注意
 - ping, tracer(traceroute)などで確認
 - 例えばホストAからホストDへなど、基本的には全てで確認すること

2009/06/29

第11回ネットワークプランニング09(荒井)

21

演習 ; 保存と提出

- 完成した(NV4の)ネットワークを保存
 - ファイル名は「学籍番号-0629」とする
 - 完成していなくても(きちんと動作していなくても)、保存してください。
- ネットワークフォルダ(weekly)に、保存したファイルを提出
 - 完成していなくても(きちんと動作していなくても)、必ず提出してください。

2009/06/29

第11回ネットワークプランニング09(荒井)

22

今日のまとめ

- ○ダイナミックルーティング
 - □ルーティングとルーティングテーブル【復習】
 - ○ダイナミックルート(※7.6)
 - ○ルーティングプロトコル(※(p357),7.7)
- ○RIPの設定(※8.7)
 - RIPを有効にする
 - router rip
 - RIPを使うネットワークを指定する
 - network networkaddress
 - 例;教科書p437
- ●演習 ; 3台のルータによるRIP

2009/06/29

第11回ネットワークプランニング09(荒井)

23